

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	958.00	2021/9/13
High	966.50	2021/9/13
Low	922.23	2021/9/16
Close	943.50	2021/9/17

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3385.00	2021/9/13
High	3418.00	2021/9/14
Low	3244.00	2021/9/16
Close	3336.00	2021/9/17

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2130.00	2021/9/13
High	2173.00	2021/9/13
Low	1924.00	2021/9/14
Close	2019.00	2021/9/17

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	7515.00	2021/9/13
High	7685.00	2021/9/13
Low	6853.00	2021/9/14
Close	7129.00	2021/9/17



ニュースエクスプレス

シバニエ CEO のFroneman、グリーンエネルギー用の金属不足を指摘

シバニエ・スティールウォーターのCEO、Neal Froneman氏はブルームバーグテレビとのインタビューで、電気自動車への転換に欠かせないバッテリー用金属の需要が増えているにもかかわらず、それに対する投資が追いついていないとしている。以下、同氏の語るところによると、

- ・ 導体不足は2022年も自動車産業に影響を及ぼし、価格を押し上げるだろう。
- ・ シバニエをはじめとする南アフリカとロシアの鉱山会社が生産するPGMの最大の消費先は自動車産業である。
- ・ PGM市場は自動車需要、電気自動車と燃料電池自動車への転換、高価なパラジウムに代わってプラチナを使う代替の動きに反応している。
- ・ ロジウム価格は10000ドル/オンスあたりで落ち着く。
- ・ パラジウム価格は下落するまで 2000ドル/オンスあたりを保つ。
- ・ プラチナ価格は長期的には 2000ドル/オンスまで上がる。

Bloomberg, 16th September 2021

白金品薄「金利」が急上昇 脱炭素で投資需要・中国爆買い 製造業、リース調達に打撃

プラチナ（白金）を借りるコストが大幅に高まっている。金利にあたる借り賃は「リースレート」と呼ばれ、7月以降急上昇した。金やパラジウムといったほかの貴金属と比べても突出して借り賃が高い。脱炭素需要を見込んだ投資や中国の輸入で白金の地金が品薄になったため、実需でリースが欠かせない製造業に打撃を与えている。

リースレートは現物価格と先物価格、ドルの短期金利から算出される。国際調査機関のワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC）によると、6月上旬には0.1%前後だった白金の1カ月物のリースレートは7月には2.6%まで急上昇し、9月上旬時点でも1.3%前後と高止まりしている。

新型コロナウイルス禍以前の3年平均が0.1%程度だったことを考えると、かなり高い水準だ。12カ月物も、9月時点で1.8~1.9%台と高水準にある。

他の貴金属と比べても上昇が際立つ。ガソリン車の触媒に使われるパラジウムは自動車生産の減少などで需要が減り、1カ月物のリースレートはマイナス圏に沈む。金も1%未満の低水準で安定する。

白金のリース取引は白金を触媒に使う自動車関連など実需で用いる企業が多い。こうした企業は使用済みの白金を回収し再利用する。リサイクルには時間がかかるため、その間不足する白金をリースで調達する。産業のあちこちで使われる欠かせない取引だ。

ところが、あるメーカーが白金を借りようとしたところ、「商社から提示されたリースレートは8月末ごろ急に上昇し、6%台になった」と明かす。実際のリース取引は相対で、信用リスクなどを加味したスプレッドが上乘せされるためだ。

借り賃が急騰した背景には極端な白金の不足がある。主な原因は投資需要と中国の爆買いだ。

白金の先物市場があるニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）の白金の保有量が昨夏以降、急増した。今年7月のピーク時は20年初めの4倍超の規模に膨れ上がった。

代替エネルギーとして見込まれる「グリーン水素」の生成で白金の需要が増えるとの期待に加え、白金相場と連動しやすい金相場の上昇で投資マネーが流入し、20年から21年初めにかけて先物価格が急騰。高値に目をつけた投資家が売却益を狙い「NYMEX在庫に白金の地金を移す動きが目立った」（日本貴金属マーケット協会の池水雄一氏）。

中国の需要も強い。白金を使うガラス生産の拡大や自動車向けの伸びで今年の輸入量は過去最高ペースだ。投資家や中国が地金を吸収し、「スポットで購入できる白金が不足している」（WPICのトレジャー・レイモンド氏）。その結果、リースに頼る動きが強まっている。

自動車生産の減速や鉱山トラブルがあった南アフリカでの白金生産の正常化などで、現物の指標となるスポット相場は弱含んでいる。7月中旬に1トロイオンス1100ドル台だったが、足元では900ドル台まで下落した。今後も価格は下がるとの見方も多く、下落リスクが大きい現物を買うより、借り賃が高くてもリースの方が結果的に得と判断する企業も多いようだ。

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ075950170R20C21A9ENG000?unlock=1>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA



WPIC直近の活動

- ・ ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC）が2021年第2四半期のプラチナクォーターリポートの日本語版を用意いたしました。2021年の予想を修正しました。詳しくは添付のファイルをご覧ください。  
[https://platinuminvestment.com/files/165890/WPIC\\_Platinum\\_Quarterly\\_Q2\\_2021.pdf](https://platinuminvestment.com/files/165890/WPIC_Platinum_Quarterly_Q2_2021.pdf)
- ・ セントヘレナの財務局と東インド会社は「セントヘレナ クイーンズ パーチューズ（美德）」シリーズにプラチナコインを加えることを決定した。シリーズ初となるプラチナの「2021 クイーンズ パーチューズ ビクトリー（勝利）」コインは需要に答えられるように1オンス、1/2オンス、1/10オンスの3種類から選ぶことができる。詳しくはプラチナ豆知識「プラチナの勝利」（2021年9月15日）をご覧ください。  
[https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/jp/WPIC\\_60seconds\\_Platinum\\_victory\\_09152021\\_JA.pdf](https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/jp/WPIC_60seconds_Platinum_victory_09152021_JA.pdf)
- ・ 上海に本社を置くREFIREは燃料電池システムの世界最先端を行く会社だ。
- ・ バス、トラック、特別仕様車、船舶向けの燃料電池システムの設計、試験、試作モデル製作、アプリケーション開発や生産などに特化している。WPICはREFIREのVPでマーケティング、ブランディング、国際業務を担当するAudrey Ma氏に成長中の燃料電池ビジネスについて聞く。詳しくはプラチナ豆知識「REFIREにスポットライトをあてて」（2021年9月7日）をご覧ください。  
[https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/jp/WPIC\\_60seconds\\_REFIRE\\_09072021\\_JA.pdf](https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/jp/WPIC_60seconds_REFIRE_09072021_JA.pdf)



@wpicjapan